

報告書⑩：通年供給体制の構築

—シンガポール向け複数品種イチゴ輸送の実施報告書—

2020年3月24日

Wismettac フーズ株式会社

輸出カンパニー作成

■背景・目的

日本には多岐に渡り様々な品種のイチゴが存在する。品種毎にそれぞれ特徴を持ち、見た目や食味が違う。品種が多岐にわたる中、輸出される品種は限定的になる。品種はあまおう、ゆうべに、恋みのり、ゆめのか、とちおとめなどが主要な品種と考える。品種を限定して輸出することは、現地消費者に対して長期的に存在を周知することが出来る一方、特定品種間において価格競争や需要過多による数量の減少が発生し、全体的な日本産イチゴの輸出量の減少につながる恐れがある。また、品種毎（産地ごと）に収穫の端境期がある為、特定の品種のみを供給した場合、シーズン中に供給が途切れる可能性がある。

そこで、当事業では複数の品種を輸出し現地嗜好調査を行う事で主要品種以外の品種の可能性を調査し、前述の課題を解消する取り組みを目的に事業を遂行する。主要品種と比較的市場流通量が少ない品種の嗜好を比較調査することで、現地に求められる嗜好性を把握すると同時に、主要品種以外の可能性を調査する。将来的に複数品種の輸送が実現することで年間を通じた供給体制の構築実現を期待する。

■実施期間

2020年1月14日～2020年2月28日

■実施内容

1. 概要

- ・輸送品種：淡雪、女峰、ゆうべにを混載して輸送した。

※4品種以上の調査は消費者回答率の悪化並びに回答に偏りが発生する事を想定し3品種で実行した。

- ・輸送先：シンガポール

- ・嗜好調査先：NTUC Fair Price
- ・調査人数：752 人に対して実施
- ・調査委託先：シンガポール青果物輸入業者の Fresh Mart 社へ委託した。

2. 調査について

調査方法

店頭で輸送した 3 品種を陳列し、消費者へ試食を依頼し好みと感じた品種に投票を依頼した。また、投票した品種の選択理由について食味別に調査を実施した。





嗜好調査結果

<アンケート結果>

* 調査項目

調査No.	品種
A	女峰
B	ゆうべに
C	淡雪

Q1.どの品種が一番好みか？

調査No.	回答者	順位
A	17%	3位
B	55%	1位
C	28%	2位

Q2. 選択した理由(複数回答)

調査No.	甘みがある	酸味がある	パフンが良い	形が良い	香りが良い	色が良い
A	20%	50%	5%	10%	0%	15%
B	46%	22%	19%	2%	1%	12%
C	9%	2%	23%	12%	0%	54%

Q3. 選択理由順位

※アンケート回答:約752人

順位	選択率	理由
1位	31%	甘み
2位	24%	色味
3位	21%	酸味

- ・3品種中ゆうべにが最も人気であった。
- ・甘みを求める食味嗜好性が高く、酸味のある女峰は食味評価が低い結果となった。
- ・食味以外の評価として色味を評価された。淡雪は白品種である為、海外産の生産数が少ない為珍しさから選択する人が多かったと思われる。

■結論

1. 主要品種以外の可能性

調査結果として、主要品種であるゆうべにを選択する消費者が多い結果となった。ゆうべにの様な主要品種は、現地で日本産の青果物を扱う量販店には殆どの場合販売がされており、輸出数量に占める割合も高い。調査を通じて品種名まで把握をして購入している消費者は殆どいなかったが、主要品種である品種は食味が現地の嗜好と合致していることが判った。今回の調査は食味評価を重点的に調査したが消費者の意思決定要素は、価格や品質状態などのその他要因にも左右されると思われる（実際に食味評価が低かった女峰は、売価帯を抑えることで現地量販店の販売数は広がっている状態）。主要品種以外も販売方法によっては拡大を期待できると思われる。

2. 複数品種混載による通年供給体制の構築

複数品種を取り扱った事で、収穫の端境期にも代替的に別品種を供給し続けることが出来た。また、重量規格の違う品種を混載したことで品種間の価格競争に陥ることがなかった。結果的に量販店の棚割りで日本産イチゴのシェアを高めることに繋がった。理想的な供給体制としては複数の品種の輸出を継続的に行う事で様々な嗜好性がある市場に対応をすることで輸出量全体の数量増加の底上げであると考えられる。

以上